

筑波山道迷い(2020年1月)

迂回路だろうと軽い気持ちで、直進。前に1名先行者、後ろにも1名。次第にどんどん正規道から離れていき、次第に踏み跡が不鮮明に。基本に忠実に来た道に戻った。



解説

登りでの道迷い。先行者がいて、後続者もいる。迂回路だろうと軽い気持ちでそのまま進むと、どんどん正規道から離れていった。次第に踏み跡も不鮮明になり、道の誤りに気がつく。周りをみると、斜面に薄い踏み跡があり、この方向に登ればケーブルカーのトンネルの上を超えて正規道に戻れるはずと斜面を進む。

しかし、踏み跡はなくなり四方八方、林の中。GPSで正規道の方角を何度も確認するも、その方向は急な下りで安全かどうか不明。ここで完全に道に迷ったことを自覚し、斜面に戻った。

よくあるパターンの道迷い。「あれっ」と思ったこの時に、「道迷い」→「方向修正」→「進む」→「さらなる深みに陥る」→「遭難」となるのが一番いけない。

「道迷い」→「現在位置確認(スマホGPS・紙地図)」→「戻る」→「正ルート」。

「戻る以外に道はない」と思って欲しい。